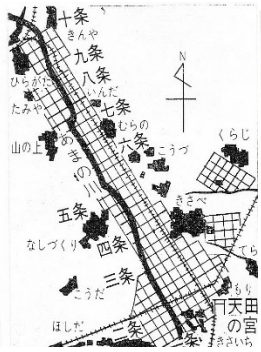
週刊「考歴民」NO36

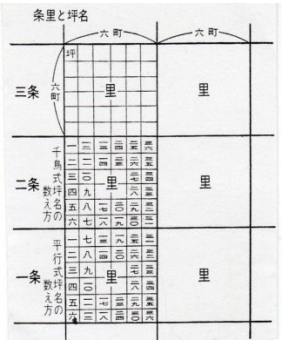
2021.11.29　　交野古文化同好会

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民と名付けました。

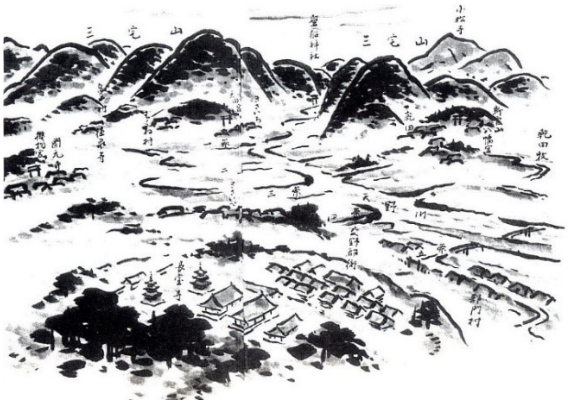
地名:私市

交野市には、私部、私市という変わった地名がある。どちらも非常に古い地名で、その歴史と成り立ちは私部の項で記述したように、私市の発生は敏達天皇（５７２～５８５）のころである。
豊御食炊屋姫が皇后になってから、皇后領として皇后のための部曲として私部であった。
その後、大化改新（６４５年）を機に律令体制へと進み、天野川筋の農耕地は条里制の施行とともに交野の村人は班田農民となっていく。

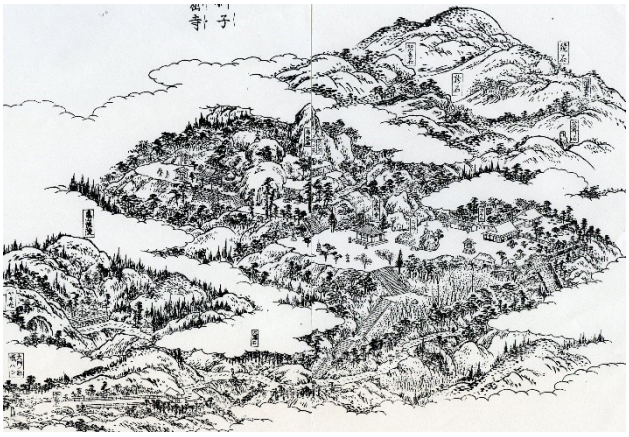




そうなると私市は条里の始まりから天野川筋の中心的集落となって、私部内となっていった。
その後、班田制の崩壊とともに新たに荘園が生まれ、発展していく。交野でも三宅山（私部山・寺・森・私市・星田山一帯 1429 町）が石清水八幡宮に寄進され、広大な荘園ができる。



また、荒地が開墾されて墾田となり、田畑が増加すれば生産も増え、人口も増大する。
物資の交流も盛んとなる。私市は、大和と結ばれる磐船街道筋であり、山麓の村としての市場町ともなりえた。
中世以後は、交野は東高野街道や山根街道などの発達から、中心は天野川の中、下流へと移っていき、私市は、かつての繁栄は失っていったと思われる。
ただ、磐船神社や獅子窟寺といった信仰から、お参りする人の往来、熊野参り奈良への通行者などで人の往来は、とだえることはなかったであろう。



小字名

私市	東川辺・中川辺・西川辺・東川原・中川原・西川原・高堤・二重川・天田・中通り・佃通り・井手ノ内（院田）・久保之内・池ノ尻・池堂・池谷・潰池・畑ノ街道 谷奥・谷奥大門原・谷奥上覚・谷奥狐谷・谷奥狸谷・谷奥長原・谷奥山ノ神 百重原・山田・尺治・尺治焼原 尺治一ノ井・尺治掛ヶ石・尺治滝ヶ広 尺治北谷・尺治鎌ヶ谷・尺治坪坂・尺治岩尾・尺治サカシ谷・尺治茨谷 尺治西心坊・尺治別当・羽衣橋・鍋石 岩船・岩船八幡・岩船猪ノ谷・岩船畑山 岩船馬場堂・岩船中島・岩船桧木谷・岩船緑浪・岩船善平谷・岩船上ノ掛・岩船青崩・岩船背並・岩船死人谷・岩船皿橋 岩船梅ノ木・岩船長坂・岩船闇り・ 岩船大岩・岩船割石・岩船橋ヶ子・岩船川原谷・岩船際目谷・磐船峡の水車群 哮ヶ峰・鹿子

小字「ついしょ」

=びっくりから

知ってしまえばそれまでよ=

天野川の西、小字向井（むかい）の地を「ついしょ」という。

天野川べりが竹藪で、西へ水田、畑、山と高くなっていて、現在、大阪市立大学私市植物園の用地になっている。

「向井」及び「ついしょ」の名の由来について、向井家に次のような話が伝わっている。

向井氏談……神武天皇が枚方鍵屋浦に上陸して磐船街道を通り、大和の長髄彦（ながすねひこ）と戦われたとき、私市、森、星田の村人が天皇を「むかえ」たので「むかい」と言い、それが向井姓となり、向井という地名になった。天皇から賜ったのか、自ら称したかは明らかでない。

また、「ついしょ」については、「追従（ついしょう）」してその土地をもらったから「ついしょ」という。

ただし、いつだれが、だれに追従したのかは分からない。また、「向井」という字をどうして「ついしょ」と読めるのか分からない。

さて、「向井（むかい）」を「ついしょ」と言い、用水の「向井川」を「ついしょ川」とも言うが、「向井」の文字を「ついしょ」と読むわけではなく、「ついしょ」は「向井」の別名と考えるべきである。「追従」は「つきしたがう」というのが原義で、「ご機嫌をとる」というのは転義である。

「向井」を「迎い」と考えた場合、迎えるということは相手につきしたがうことにもなって「追従」しているわけである。

また「迎える」は相手の意に迎合すること、つまりご機嫌をとることであることから、これはまさしく「追従」である。このように考えると「向井」と「追従」とは結び付く。

しかし、これは「ついしょ」の語源の説明にはならないだろう。「向井」「ついしょ」という名が先にあって、それと神武天皇と結び付けて、おもしろく作られた後世の説話であろう。

いつごろ作られたか明らかでないが、代々語り継がれてきたらしく、私市、森、星田の向井氏の古い伝承として後世に伝えるに足りるものといえよう。

さて「ついしょ」の意味について、以上の「追従」説は別として、他に想像をめぐらせば、次のようなことが考えられる。

①ついえしょ（潰え所）

天野川の氾濫などで、崩れてついえた所。

②つきしょ（築き所）

天野川の洪水で水がついた所。

③つきしょ

土地が崩れて、土などで築いた所。

④つぎしょ（継ぎ所）

人や物の輸送の中継ぎをした継ぎ立て場。

⑤ついしょ（対所）

天野川の対岸。向こう岸。

以上、いずれも根拠のない推定に過ぎないが、最後の「対所」が当たっているのではないか。

「ひらき」と「向井」が天野川を挟んで相対しており、「ひらき」側から見れば、まさに「対所（ついしょ）」なのである。

南隣を「むかい」というから、そこは「向かい」に当たるわけで、「向井」というのもこの意味であろう。これらから考えても「ついしょ」と「向井」とは結び付く。

「わがまちふるさとかたの地名をたずねて」より

1948 年の私市

郷土史かるたで読む私市

私市富士より

弘安地蔵　　弘安四年（1281）

国登録:天野川砂防堰堤

次回 12 月 6 日